

[担当教員]

小幡剛也（客員教授 / 竹中工務店） 本田孝子（日建設計） 畑友洋（畑友洋建築設計事務所） 槻橋修（教授） 浅井保（助教）

[Teaching Assistant]

泉貴広 (A72) 千馬生吹 (A72) 柳内あみ (A72)

■課題概要

敷地は阪急六甲駅北側プラットフォーム沿いの区画。ここに建築教育施設、建築に関連する諸々の情報の発信拠点、そして駅機能の複合施設を計画する。阪急六甲駅の平日の乗降客数は約30,000人/日。一方、教育施設の主たる利用対象者は神戸大学建築学科 / 建築学専攻の関係者は約500人。さらに情報の受信者は不特定多数、無数の市井の人々である。ここを通過・滞留・滞在・参加（遠隔含）そして交錯する人々の間の創造的コミュニケーションを促し、これらの多様なアクティビティを可視化する場所とする。このようなイメージを顕在化させる、唯一無二の、ここにしかない磁場を創造することが本課題の趣旨である。

■附带条件

駅機能は敷地内のいずれかに再構成する。既存バス・タクシー乗降機能は敷地外の隣接地に移設するものとし、計画敷地内には不要。教育施設は建築学科に所属する学部生・大学院生・社会人・研究者・教員を主たる利用者とする。情報受信者は建築・関連諸分野のインフォメーションや展覧会・セミナー（ウェビナー）などに集う人々である。それぞれの機能が輻輳する形態とする。建蔽率・階数は規定しないが、複数階積層が前提（面積要件を参照）。周辺環境に配慮したものとし、ランドスケープデザインも建築と同様の地平で思考すること。建築延面積は8,000㎡程度とする（敷地（線路敷除く）は約9,600㎡）。

■計画要件

1. 駅施設（計1,000㎡）

改札口、駅長室、架線上施設、階段等、ショップ、WC他

2. 教育施設

スタジオ 400㎡×2、デジタルファクトリー 200㎡、講義室 80㎡×4、150㎡×2、300㎡×1、研究室 25㎡×30、会議室 30㎡×3、50㎡×2、100㎡×1、資料室 250㎡、レストルーム、シャワー、ランドリー他

3. 情報発信施設

ホール 600人収容・ステージ、ホワイエ、レセプション、ライブラリー、ワークショップルーム、建築模型展示室、デジタルアーカイブ他
+コミュニケーション施設（自由設定）
カフェテリア、レストラン、ショップ、アート、フォリー、各機能を連鎖するオープンエア空間等



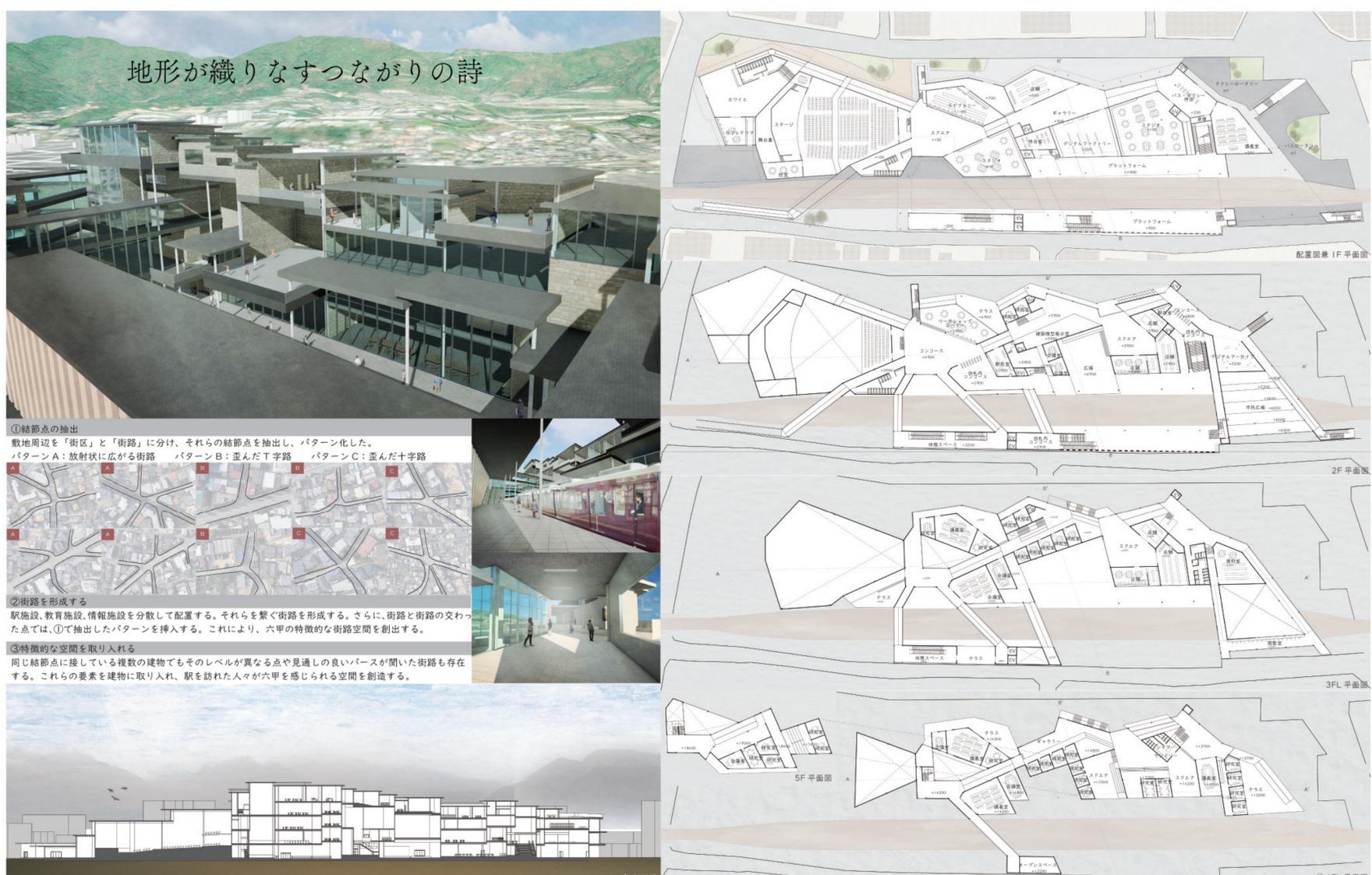
国土地理院 地理院地図 (https://maps.gsi.go.jp/) をもとに編集者作成

課題敷地

地形が織りなすつながりの詩

関川珠音

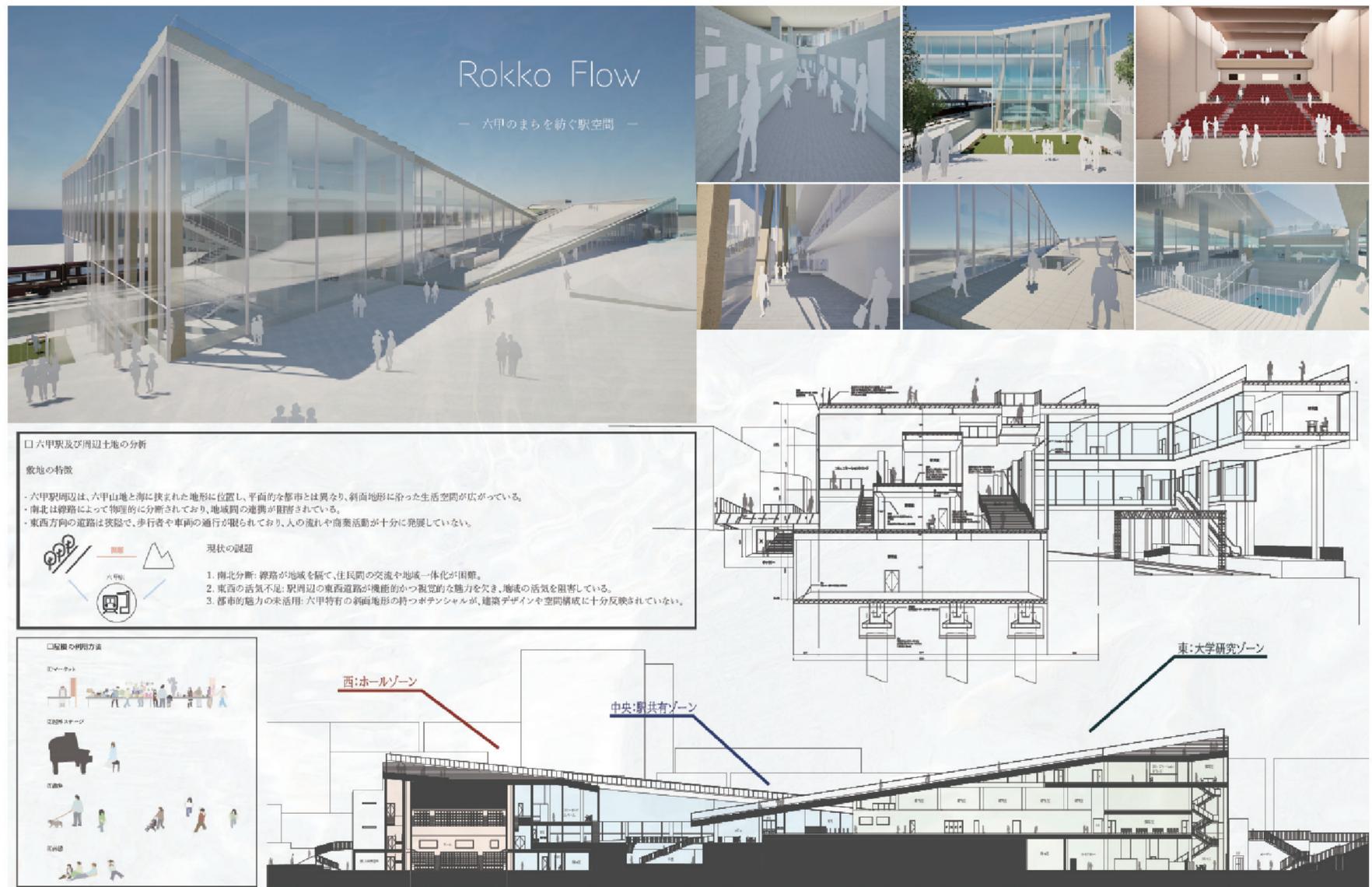
六甲の高低差のある街路が生む歪んだ交差点を起点に、偶然の形状が生む空間の余地を活かす。駅利用者や大学関係者が自然に交わる場とし、通過点でありながら立ち止まり、交流が生まれる空間を目指す。日常に小さな驚きや発見を提供し、まちの物語の一部となる場所を描く。



Rokko Flow —六甲のまちを紡ぐ駅空間

篠崎楓日

線路によって断たれた土地に、東西南北を繋ぐスロープを架ける。都市の流れをすくい上げ、緩やかに結び直す装置として。大学機能とホールを結節点とし、その間に広がる共有空間が、人々の足をとめ、新たな交差を生む。動線はただの通路ではなく、街の鼓動を映す風景へと変貌する。



NESTATION

松嶋祐希

中長期的な利用者がほとんどの六甲駅。閉じているようで開いている、秘密基地のような居場所をつくりつつ、3種類の素材を用いた台形の外観によって、シンボリックで、愛着を持ち、人の記憶に残る駅となるよう設計。



